

【実践報告】

学校教育の体験活動（小）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 佐伯育郎 教授 村上典章

准教授 長澤希

教職センター 特任講師 小川雅史

1 はじめに

本科目は、1年次の「児童の理解」における学修を発展させる授業であり、3年次以降の「教育実習」の導入としても位置づけられる。本科目の目標は、「児童の理解」で学んだ知識・身につけた技術を基に、小学校教育の実際を体験的に理解し、教育者としての愛情と使命感を高め、将来教員になるうえでの能力や適性を考え、課題を自覚するとともに、教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることである。具体的には、体験活動の事前指導を通して、教育実習生として小学校の教育活動に参画する意識を高め、体験活動後の省察により、教員免許取得までに身につけるべき知識や技能等について理解する。児童や教育環境等に対する観察や関わりを通して、小学校の児童の実態及び、実態に応じた教育活動の特色を理解する。そして、大学での学びと体験活動とを結びつけることで、専門的な知識、理論及び技術等を小学校教育の場で実践するための基礎を身につける。

2 実施のスケジュール

日付	回数・内容
4/13	①前期オリエンテーション、ボランティア事前調査
4/20	②SNS・個人情報、学校支援活動、実習校希望調査
4/27	③体験活動の配属学年、目的・目標、個人の目標、自己紹介文
5/11	④自己紹介文の交流・助言、助言を受けて修正・提出
5/18	⑤個人の目標の交流・助言、自己紹介文の添削について
5/25	⑥学校支援活動、子どもとの接し方、自己紹介文、個人の目標の提出方法
6/ 8	⑦授業観察・記録の方法、子どもとの接し方、観察記録・お礼状
6/15	安芸高田市立吉田・八千代・愛郷小学校での現地実習（午後のみ）
6/22	⑧現地実習の振り返り、お礼状の分担、お礼状の下書き
6/29	⑨お礼状の清書・幼小合同交流会の準備
7/20	⑩幼児教育の体験活動との合同交流会
7/27	⑪内諾説明会の補足、学校支援活動、前期の振り返り
9/28	⑫後期オリエンテーション、ボランティア現状調査
10/19	⑬ボランティア現状調査の報告、ボランティア活動状況報告会に向けて
11/30	⑭現地実習について

12/ 6 (火)	広島市立八木小学校での現地実習（午前中のみ）
12/14 (水)	広島市立祇園・緑井小学校での現地実習（午前中のみ）
12/21	⑮現地実習の振り返り，お礼状の分担，お礼状の下書き
1/11	⑯ボランティア活動状況報告会②
1/18	⑰幼・小合同交流会
1/27	⑱全体のまとめ・今後の実習に向けて，教育実習 I（小）ガイダンス

3 成果と課題

昨年度は，新型コロナウイルスの影響により，小学校での現地実習（体験活動）が後期の1回しか実施できなかった。20時間のボランティア体験も，受講生全員に課すことはできなかった。その結果，ボランティア活動報告会において，ボランティア体験に参加できた学生の発表，質疑応答を通して学びを全体に共有するに留まった。今年度は，前期1日（午後のみ）と後期1日（午前のみ）と，2日間の小学校での現地実習を実施した。これまでの安芸高田市立の3小学校に加えて，広島市安佐南区の3小学校の協力により新たな学びの場と機会を得ることができた点と20時間のボランティア体験を受講生全員に課すことができた点が今年度の成果であった。ボランティア活動報告会も，昨年度より1回多く実施することができた。事後の振り返りやボランティア活動報告会，幼児教育の体験活動受講生との交流会などにおいても，学生の学びの成果を得られたことが確認された。

課題としては，シラバスでは体験活動が40時間（合計5日間）となっているが，新型コロナウイルスの影響によって時間数が少ない実施となった点が挙げられる。今後は，感染状況を鑑みながら時間数を増やすことも含めて，より充実した現地実習（体験活動），ボランティア体験にして，授業を改善していく必要がある。